

動かし、この間に色の變化する順序により結晶の断面が第何級の何色に相當する干渉色を呈したかを知ることが出来る。有色鑛物では體色の爲めに干渉色が判然たらぬから、この方法で補償の位置に基いて之を知る外ない。

此の方法により色階に於ける位置が知れたとして、是から複屈折率の強さ *Birefringence* を知らんとするには薄片の厚さをも知らねばならぬ。e が前に掲げた石英及び長石の示す最高の干渉色から推知し得る様な場合には、その大きさを略ぼ見積り得る。

新著紹介

○世界地理風俗大系 イタリヤ・地中海 東京新

光社發行 昭和三年九月

二十八巻で完結される豫定で一冊貳圓八拾錢の豫約で刊行され初めた世界地理風俗大系の第一回配本は美しい臘脂色の春革クロース型入装釘の四六倍版三三〇頁のオート紙で堂々と出版された。約八百の寫眞版と數葉の三色版は南歐の古くして新しき國のあらゆる姿態を鮮明に寫し出してある。解説の執筆者は地理學者佐藤弘、田中館秀三、渡邊萬次郎、田中阿敬齋、小田内通敏の諸氏と史學地理學者大類伸博士、伊太利學者又は伊太利通の吉田彌邦、岡伊能、山本信次郎、荒井隆男の諸氏が各得意とする所を麗筆を以てつゞられたものであ

る。ラルースの「世界地圖帖」や「大地」に似た編纂の仕様であるがそれよりも一層美しく且つ精細なものであつて地理教授者の參考ともなり、家庭の愛玩にも適し地理知識の庫の如き觀がある。紹介者は本大系の引續く發刊の成功を祈ると共に廣く日本にゆきわたることを地理學の爲めに望むんで止まない。(N)

○石炭 河村信一著 菊版一五八頁 古今書院發行 定價

二圓二〇錢

石炭は地下に存在する量の四%しか利用されてゐないから一般の人士も其經濟的處理を究めなければならぬと云ふ見地で本書が編まれた。其材料はムーアの「石炭」などから重に翻譯されたもので外國の事項が多く書かれてある。重に力を盡されたのは石炭の根源及炭化、種類、分類で最後に亞炭の一章がある。この亞炭の章は著者が多年愛知縣下のものを調査

された結果を書かれてある爲め他の部分と違つてオリザナリチイのある記載に富んである。石炭を作りし時代の章下には日本内地、樺太、臺灣の例を擧げてはゐるが我國無烟炭の主産地である朝鮮の例を一も掲げなかつたり、煉炭の條下に我國で製作されてゐるものの状況に一言も及ばなかつたりして居るのは本書が主に外國の書物の抜き譯である爲めである。外國の事を主としたにも係らず外國の地名と人名とな無茶苦茶に讀んで居るのは丁度明治初年の翻譯書の影が見えて悲しい感じがされる。それにしても外國語を讀むことの面倒な紹介者の如きものに執つては参考になる著述である。(S)

○政治經濟地理學

佐藤弘著 昭和三年十一月 古今

書院發行 定價三圓八十錢

東京商科大學教授として新進の地理學者佐藤氏はさきに遣外留學を卒へて歸朝、爾來本書の出版に全力をつくされた。

著者の自序によると、主として Rudolf Reinhard, Welt-Wirtschaftliche und politische Erdkunde を種にして本書にされたとのことである。原書をみると、一般經濟地理が第一篇、交通が第二篇、政治地理が第三篇で菊版百八十八頁にすぎない本ではあるが、同じ類の多くの書籍の中でも要を摘み粹を抜きまことに手頃の面かも教えられる、所の多い本である。筆者もその愛讀者の一人であつて、嘗ては京都府教育會學術研究所で、經濟地理を講義した時に専ら之を譯述したのであつたが、今佐藤氏の著述をみると、その第二篇を卷頭に

第三篇をつぎに、第一篇を最後に置かれた、構の上に於てラインハルトを充分に取り入れた外にザイトリツ、やヘットナーの著作をも参照し、原書の中の文句でその地名や、意味の不明だと思はれるものについて、新に適當なる解説をつけられた。これは原書にはないから、著者の親切である。挿圖も原書にないものが多分入つてゐるが、原版の横文字がそのまま入れてある。これは製版費の上からは餘儀ないことではあらうと存するが、この書を讀んで中等教員の檢定試験でもうけやうとする目下一般の人に對しては、日本語がしてない丈け氣の毒である。ことにそれが獨逸文であることも邪魔になると思ふ。これは残念ながら今日の日本人のさうした方面の人が英語をやつてゐるのが多いからである。しかし圖そのものが原本と同様に、或ばそれ以上に美ばしく出でゐることはこれ又特筆すべき美點であらねばならぬ。かくて政治經濟地理に關して、いかにも統制のあるきのきいた菊版四七九頁といふ堂々たる著述が出来たのである。筆者はかうした良書がこの方面の参考書として讀者におすゝめする。と同時に、子の學生にも讀ませうと考へてゐる。恐らくは洛陽の紙價を高からしめるであらう。(藤川)

○富士の歴史

井野邊茂雄著 古今書院發行 定價四圓

二十錢

本書は官幣大社淺間神社編纂にかゝる富士研究六冊の中の第一冊である。先にその第五冊富士の地理と地質(石原初太

郎氏著)が出たが、この十一月になつて、この第一冊が出た、序を追つて發行されることであらう、本書は富士研究の主任史料編纂官井野邊茂雄氏の執筆である、菊版五百四頁緒言、序説の外、富士の歴史として、その出現傳説、噴火噴烟の記事名稱の考證、山林、登山の沿革と各登山口の盛衰とをのべ第六章に各地の富士と稱するもの憧憬の情をよせたもの、及研究條録と文獻が出てゐる。

淺間神社の仕事として誠に神慮に叶つた美舉である、挿入圖版二四枚いづれも面白い。予は噴火の歴史と登山に關する史的考證とその發達に多大の感興をひいた。日本の誇である富士山に先人のよせた憧憬の情と、山を中心とした信仰的登山の發達を見て卷をおく時を忘れた。山と人文との關係を學ばんとする人に一本をすゝめる。印刷鮮明、紙質好美製本もよい近來の快著といつてはゞからぬ。(F)

○物産と地理

新貝清三郎著 昭和三年十月 大阪寶文館發行 定價一圓八十錢 四六版三三七頁

著者は岐阜縣師範學校に奉職せる篤學の青年である。多年地理教育に従事し小學校教授上の參考として蒐集した物産に關する品目、動植礦物凡二百二十一種について各其地理的條件、地理的分布生産の狀況消費の狀況、といつた各方面を克明にしかも簡短に記述したものである。簡易商品學とでも評すべきである。小學校の地理科もしくは青年教育所の參考圖書として適當であらう。何分三百六七十頁の小冊子であるか

ら、地理學的説明に缺くる所がある。地理的分布といふ項目はあるけれども、その説明があまりに簡短であるからである。經濟地理學としては、かうした各種の品目的研究の上に更らに地理學的説明を與へねばならぬ。しかし、本書はさうした目的で書かれたのではない。挿圖に説明がないし分布地圖もないのが淋しい。これは價格のためにかうなつたのであらう予はこゝまで蒐集した著書の努力を多とする。(藤田)

新著即報

◎近畿の山々 山崎恒雄著 昭和三年九月 大阪西區江戸堀

近畿登山研究會發行 家村文瓶堂發賣 定價一圓五〇錢

◎本邦溫泉論考 石川成章著 昭和三年十一月 古今書院發

行 定價一圓六〇錢

◎日本石器時代遺物發見地名表 第五版 八幡一郎 中谷治

宇一郎增訂 東京帝國大學編 昭和三年十月 岡書院發

行 定價三圓五〇錢

◎北海道石炭鑛業會々報 一一七號 十月

北海道石炭鑛業に就て(上)(直原佐平)

石狩炭田の炭層狀態に就て(村田折)

南樺太の石炭鑛業(二)(松本彬)

◎民族 第四卷第一號 十一月

臺灣の瑯嶠族(幣原坦)

◎兒童教育 第二三卷第一號 十一月